

(別添3)

【深谷市】
校務DX計画

1. 校務DXの現状と課題

本市では、令和5年度に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、校務の効率化、ロケーションフリー化、ペーパーレス化が進んでいないことが分かりました。その阻害要因を以下に示します。

1.1. 校務系・学習系ネットワークの分離

現在、本市の学校ネットワークはセキュリティの観点から校務支援システムと接続された校務系ネットワークと学習系ネットワークに分離されています。このため、校務系ネットワークと学習系ネットワークのデータの円滑なやり取りができず、学習系ネットワーク内のデータを校務支援システムに入力するなど不合理な手入力が多く、校務の効率化を阻害しています。

1.2. FAX 及び紙様式・押印の使用

現在、本市では外部との連絡においてFAXを活用しています。さらに、勤怠管理、休暇申請などにおいて紙様式・押印を使用しています。このため、紙様式の内容を事務職員がシステム等に入力する必要があり、不合理な入力が多く、校務の効率化・ペーパーレス化を阻害しています。

1.3. オンプレミス型の校務支援システム

現在、本市で利用している校務支援システムはオンプレミス型であり、閉域ネットワーク内に構築されています。このため、教職員の校務は校長室、事務室、職員室に限られており、教室や外出先等で作業できず校務の効率化・ロケーションフリー化を阻害しています。

1.4. 校務支援システムと保健管理システムの分離

本市で利用している校務支援システムでは、保健管理システムが校務支援システムから独立しています。このため、健康診断結果等、保健管理システムで入力した情報を再度校務支援システムに入力する必要があるなど、不合理な手入力が発生しており、校務の効率化を阻害しています。

1.5. 教育委員会向けに可視化するインターフェイスの未整備

現在、本市では、教育委員会向けの可視化するインターフェイスが整備されていません。このため、実態を把握するには個別に集計する必要があり、校務の効率化を阻害しています。

2. 解決に向けた取り組み

2.1. 校務系と学習系のネットワーク統合及び最適化

- ・ 校務系・学習系ネットワークを統合することにより校務系・学習系データの円滑な連携を可能とし、校務の効率化を目指します。
- ・ 主な取り組み 新規ネットワーク環境検討、構築、運用開始
構築実施事業者選定

2.2. セキュリティを確保した教育用インフラの整備

- ・ ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を講じることで、学校外での校務端末利用を可能とし、校務の効率化とロケーションフリー化を目指します。
- ・ 主な取り組み 新規インフラ環境検討、構築、運用開始
構築実施事業者選定

2.3. FAX 及び紙様式・押印の廃止

- ・ 情報のやり取りに際しクラウドツールの活用を促進することでFAXを見直し校務の効率化・ペーパーレス化を目指します。
- ・ 校務支援システムやダッシュボード、電子決裁の活用により勤怠管理、事務手続きなどに際する紙様式・押印を廃止し、校務の効率化・ペーパーレス化を目指します。
- ・ 主な取り組み FAX及び紙様式・押印の状況調査
ペーパーレス化方針検討
FAXの原則廃止、紙様式・押印の見直し

2.4. 校務支援システムのクラウド化

- ・ クラウド（SaaS）型の校務支援システムを導入することで校務の効率化・ロケーションフリー化を目指します。
- ・ 導入する校務支援システムにおいて、現在オンプレミス形式になっているその他のシステム（保健管理システム、勤怠管理システムなど）を包含する同一システムとすることで不合理な入力をなくし、校務の効率化を目指します。
- ・ 主な取り組み 新規校務支援システム環境検討、選定
新規校務支援システム構築、運用開始

2.5. データ連携基盤ダッシュボード機能の導入

- ・ 可視化するインターフェイスの未整備のため、クラウド上に存在する様々な校務系・学習系のデータを自動的に収集、分析、加工して簡潔にまとめ、視覚的に分かりやすい一覧化を図り、児童生徒の実態把握・共有の効率化を目指します。
- ・ 主な取り組み データ連携基盤ダッシュボードの検討、構築、運用開始